

## 第4次松戸市協働推進計画 中間見直しに係るパブリックコメント(意見募集)手続きの実施結果について

「第4次松戸市協働推進計画 中間見直し」の作成にあたり、市民の皆様からご意見を募集したところ4名の方からご意見をいただきました。ご意見の提出ありがとうございました。

お寄せいただいたご意見を整理し、市としての考え方をまとめたのでお知らせいたします。

### 【パブリックコメント手続実施結果の概要】

1. 意見募集期間 令和8年1月5日(月)～令和8年2月4日(水)
2. 意見提出者 4名
3. 意見総件数 22件
4. 集計結果

(単位: 件)

内容	意見数	修正有	修正無
市民活動や協働の進め方に関する提案	10	2	8
情報発信のあり方	5	2	3
市民活動の相談体制に関するもの	3	0	3
計画の位置づけや考え方	3	0	3
その他	1	0	1
合計	22	4	18

5. 意見内容および回答 下記の通り

No.	頁	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正有無
1	14-18	目指す姿1-1「まちづくりに積極的に参加できる」	そもそも協働という言葉のイメージが定着していないと感じる。ロールモデル的な人を選び(納得感がある人選が重要)、その方を伝道師という意味の「街の協働エバンジェリスト」という役割を創設し、その伝道師のSNSによる情報発信と露出を増やすことで、「協働」という言葉の浸透を図る。	ご意見のとおり、協働の考え方の理解を広げていくことは大変重要であると認識しており、協働に関する情報発信については、目指す姿1-2に基づき引き続き取り組んでまいります。	無

No.	頁	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正有無
2	14-18	目指す姿1-1「まちづくりに積極的に参加できる」	1年間で、著しく協働活躍をした人を表彰する制度を創設。たとえば新人賞、ベスト活動賞、松戸市長賞などいろいろな方面で活動している方を表彰することで、「協働」の認知と活動の励みにつなげる。特に地道な活動を長く続けている方、目立たないけど地域の困っている人に寄り添っている人などを発掘することもできる。	地域での協働活動が認知され、活動に取り組む人の励みにつながるという視点は重要であると捉えています。いただいたご意見については、協働の周知・啓発に関する取り組みの参考とさせていただきます。	無
3	14-18	目指す姿1-1「まちづくりに積極的に参加できる」	市民活動を行っている人は多数いるが、体制面、資金面その活動それぞれで理由は異なるが、継続することの難しさがあると感じます。松戸市をもっとよくしたいと強い想いを持った人が集まる「まつど地域活躍塾」や「みらい会議」の場に、市長とのタウンミーティングの時間を設け、意見交換会を行うことで、市民活動を点ではなく、面で支えるための行政の立場が明確になると感じる。	市民活動の継続にあたっての体制面や資金面の課題については、本計画においても整理しており、人材育成や参加のきっかけづくり、情報提供、助成金交付などを通じて、市民活動を支える取り組みを進めています。ご意見にあるタウンミーティングについては、目指す姿3-2の個別施策で掲げており、目指す姿に応じた施策の中で位置づけています。	無
4	14-18	目指す姿1-1「まちづくりに積極的に参加できる」	松戸市では、「グリーンスローモビリティ」を高齢者向けの社会福祉の一環で活用されているが、実際に乗ってみると街をゆっくりしたスピードで練り歩く街のパトロール的な位置づけと感じる。また住民からも親しみを持った目線で見ていることがわかる。まさに動く「協働」カーとして、グリーンスローモビリティ自体を「協働」の場所として利用検討してみたいか？そのためには、例えば、交通手段としての活用に加えて、動く市民センタ(コミュニティの場)、街の特産品の社内販売など。さらに、だれもが利用する場として考えると、現在は高齢者利用を想定しているが、障がい者の車いす利用も必要になってくる。現在、グリーンスローモビリティは、「松戸市福祉長寿部 高齢者支援課」が担当ですが、「協働」を目的にするために「松戸市市民部 市民自治課」の担当が望ましい。	グリーンスローモビリティは、高齢者の社会参加の促進や外出の機会の創出が期待される取り組みであり、その性格を踏まえ高齢者支援を所管する部署が中心となって進めているところでございます。一方で、多様な主体の関わり方の視点は、今後の取り組みを進めるうえで参考とさせていただきます。本計画では、各分野の施策との整合を図りながら、協働の推進に取り組むこととしています。	無

No.	頁	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正有無
5	14-18	目指す姿1-1「まちづくりに積極的に参加できる」	「街の協働エバンジェリスト」の役割になると思いますが、積極的に参加・活動することで「やれば出来る」という可能性や確信を得るため「協働」事業としての「成功事例」を積極的に公開してほしい。最初の一步を踏み出すにあたり、「では私もやってみよう」という動機付けになります。公開する情報としては①事業名 ②事業概要 ③松戸市が目指す街づくりと当該地域の現況と課題 ④③の解決策 ⑤市・住民・他ステークホルダ各々の役割分担・運営体制 ⑥スケジュール⑦推進してく上での課題といかに乗り越えていったか ⑧予算額・分担です。	毎年度実施している協働事業については、協働事業提案制度に基づき、事業計画および活動状況報告書を市ホームページ等で公開しており、協働事業の内容を確認することができます。ご意見を踏まえ、協働の取り組みを分かりやすく示すため、個別施策「協働事業提案制度」における事例公開の記載を追記しました。あわせて、同様に事例公開を行っている市民活動助成制度についても追記しました。 <修正該当箇所> P.23 個別施策 No.1, 2 P.28 個別施策 No.1	有
6		町会活動について	町会活動に関わっていると、市社協、地区社協、地区会とかなり、深く関係を持たないと、成り立たないことが多々あります。町会員や地域住民が気兼ねなく社協や地区会へのイベント参加を中心とした市としての方針を記載してほしい。	本計画では、「自分の望む形でまちづくりに参画できる」や「みんなが連携し協力できる」を基本目標として掲げ、市としての基本的な考え方を示しています。町会活動を進めるうえで社会福祉協議会や地区会等との関係づくりが重要であることを踏まえ、多様な主体が無理のない形で地域活動に関われるよう、計画に基づく施策を推進してまいります。	無
7	17,24,31,34,38	打合せ場所について	市民活動団体が、急に少人数で打合せができる無料で使えるラウンジがあると助かります。利用できる時間も21時ころまでにしてもらえると、助かります。	活動場所の提供は重要な市民活動支援の一つと認識しています。まつど市民活動サポートセンター(月～土曜21時まで 日曜17時まで開館)の交流サロンや、市民交流会館(21時まで開館)の市民交流コーナーは予約なし・無料で打ち合わせ等にご利用いただけます。また、活動拠点マッチング事業により、市内の無料または実費相当額で利用できる民間施設等の活動場所に関する情報提供も行っています。今後も、市民活動を行う人が持続的に活動できる環境づくりを進めてまいります。	無

No.	頁	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正有無
8	18	個別施策「まつど市民活動サポートセンターとボランティアセンターの連携」について	総合福祉館内の各機関(基幹支援センターcoco、地域包括支援センターなど)との連携についても必要なのではないか。	「まつど市民活動サポートセンターとボランティアセンターの連携」は、目指す姿1-1の実現に向け、市民が地域活動を始めたり参加したりする際に、相談や情報提供につながりやすくなるための施策となります。 総合福祉会館内に所在する基幹相談支援センターや地域包括支援センター等についても、それぞれの専門性に応じて相互に連携することを前提としており、本計画に基づき、円滑な支援につながる環境づくりを進めてまいります。	無
9	21	情報の発信について	施策の方向性のうち情報の発信方法を広報まつど、ホームページ、SNS等と記載しています。SNSについては具体的にどのプラットフォームなのか明示したほうがいいと思います。このページではInstagramの開設を強調していますが、それ以外にLINEやXなどの位置づけがわかりません。ご検討をお願いします。	目指す姿3-4の個別施策「各種媒体による行政情報の提供」において具体的なSNSを明示していますが、市民活動に関する情報発信も含まれることから、ご意見を踏まえ、目指す姿1-2の個別施策においても、市民活動に関する情報発信が分かりやすくなるよう記載を追加しました。 <修正該当箇所> P.21 個別施策 No.7	有
10	22-25	市民活動の支援について	多くの支援があり、個別施策としても充実したメニューがあると見られます。一方で複数の課にわたって支援していることから、市民活動を行う団体がどこに相談すればいいのかわかりづらい状況です。また市役所内としても他の課の施策については把握していないこともあると思われます。そのためコーディネーター的な一元窓口を設けていただくことを要望します。	まつど市民活動サポートセンター・市民自治課において、市民活動に関する相談を受け付けており、必要に応じて関係部署や支援制度の紹介などを行っています。引き続き相談体制の充実を図ることで、安心して市民活動を相談できる環境づくりを進めてまいります。	無
11	25	市民活動の支援について	個別政策のなかに学校支援活動についての記載が見当たりません。「コミュニティ・スクール」や「地域学校協働活動」は該当しないのでしょうか。	「コミュニティ・スクール」や「地域学校協働活動」は学校と地域住民の協力・連携を推進するための制度であることから、ご意見を踏まえて、目指す姿2-1の個別施策に記載を追加しました。 <修正該当箇所> P.29 個別施策 No.10	有

No.	頁	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正有無
12	26-42	基本目標2「みんなが連携し協力できる」 基本目標3「松戸に愛着と誇りを持つことができる」	<p>【意見の趣旨】 仮庁舎移転計画に含まれる松戸ビル事務棟20階フロアを、市民の歴史的記憶を継承し、次世代の「自発的な参画」を支える広報・協働の戦略的拠点として活用することを提案します。</p> <p>【理由】 移転計画面積の3%弱を、市民の歴史的記憶と次世代の活力をつなぐ投資に充てることは、合理的かつ「協働の松戸」を象徴する極めて社会的価値の高い判断となるため。</p> <p>1. 歴史的価値の継承によるシビックプライドの醸成 松戸ビル20階は、かつて回転レストランとして親しまれ、多くの市民が家族と「ハレの日」を過ごした記憶の拠点です。この場所を単なる執務室として閉鎖するのではなく、市民に開かれた拠点として再起動させることは、基本目標3が掲げる「愛着と誇りの醸成」を最も象徴的に体現する施策となります。</p> <p>2. 空間特性に基づく合理的運用の徹底 20階の特殊な円形構造は、通常の執務室としては配置効率が低く、無理なオフィス利用はデッドスペースを生み、行政効率を低下させます。移転総面積(約10,000㎡)のうち、現庁舎比での増分(約300㎡)に相当するこの空間を「戦略的エリア」へ転換することは、配置計画全体の合理性を高める選択です。</p> <p>3. 「自発的な参画」を促す持続可能な共創モデルの構築 基本目標2に掲げられている「多様な主体の自発的な参画」を促進するため、既存の「行政財産目的外利用」のルールを活用した開放を提案します。これにより、行政側が過度な管理負担を負うことなく、市民側が自発的に管理・運営に協力できる、持続可能な協働モデルを構築すること</p> <p>4. 市の先進性を発信するブランディング資産としての活用 この眺望を背景とした「格調高いプレスルーム(広報拠点)」の整備は、新市長が掲げる「市民の英知を結集する市政」を対外的にアピールする強力な広報インフラとなります。市民が街を再発見する「視座のリセット」の場を提供することは、市政への信頼と期待を醸成します。</p>	貴重なご意見として、今後の参考とさせていただきます。	無

No.	頁	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正有無
13	28	目指す姿2-1「多様な主体が協力・連携するための支援がある」の個別施策	他にも協力・連携が必要な部門があるので追加したほうがいいのではないかと ・避難行動要支援者の避難支援体制づくり(福祉長寿部 福祉政策課) ・コミュニティ・スクール(生涯学習部 教育政策研究課) ・多世代型地域包括ケアシステムの推進(福祉長寿部 高齢者支援課) ・みどりの基本計画の推進(街づくり部 みどりと花の課)	ご意見を踏まえ、連携の具体像がより分かりやすくなるよう、目指す姿2-1の個別施策にそれぞれの施策を追記しました。 <修正該当箇所> P.29 個別施策 No.9, 10, 11, 12	有
14	30-32 36-39	目指す姿3-1「松戸市のことを学ぶ機会がある」 目指す姿3-3「様々な立場の人達が交流やつながりを持つことができる」	まつど地域活躍塾の小学生、中学生、高校生版を創設し、大人では気づかない視点で地域の関わりを設けることができ、若者世代からの協働参加を促す。子供世代が動き出すと、家庭での会話を通して、市民活動に一番近い、その親世代(20代~50代)が、市民活動や松戸市に目が向くきっかけになる。	若い世代が地域との関わりを持つことについては重要であると認識しており、地域活動やボランティアを体験できる「Let's体験」や、市政への要望や意見を聞く「こどもモニター制度」等を行っています。こうした既存の施策を着実に進めることで、子どもや若者が地域や市に関心を持つきっかけを広げてまいります。	無
15	33-35	目指す姿3-2「暮らしの中で課題を考えて、共有することができる」	町会内、自治会の活動は、その地域の事情が異なるため、横展開が難しい場合が多い。単なる事例紹介では横展開が難しい。まつど市民活動サポートセンターで、市民自らで構成する「コミュニティーサポーター制度」により、その街の抱える課題を一緒に考える機会はあるが、特にまつど地域活躍塾OBOGも単独で自分が住む町内会に目を向けて声をかけることはハードル高く、勇気が必要。後押しをする制度(認知)があるとハードルは下がる。町内会に声を掛けたら巻き込まれると不安を感じる方もいると想定するので。	本計画では、目指す姿3-2の実現に向け、地域ごとの事情を踏まえながら、立場の異なる人たちが課題を共有し、対話できる機会づくりを進めてまいります。あわせて、市民が関心や状況に応じて無理のない形で活動へつながる環境づくりを推進します。いただいたご意見については、今後の取り組みを進める際の参考とさせていただきます。	無
16	36-39	目指す姿3-3「様々な立場の人達が交流やつながりを持つことができる」	行政や市民活動が行うイベントに関して、日本語版、英語版など多言語の「チラシ」対応をして、外国籍の方への情報発信をしているが、その外国籍の方はその国の方々が利用する情報アプリを使ってイベント情報を検索しているため、多言語化だけでは検索されない。日本人が参照するサイト(SNS)以外に外国籍の方が利用するアプリイベント情報を流通させる仕組みを構築する。	市民活動や行政が行う取り組みに関する情報が、より多くの人に届くよう工夫していくことは、大切な視点と認識しています。外国籍の方への情報発信の在り方や、情報の届け方に関するご意見については、今後の取り組みの参考とさせていただきます。	無

No.	頁	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正有無
17	36-39	目指す姿3-3 「様々な立場の人 達が交流やつなが りを持つことができ る」	現役世代の市民活動への参加が少ないという課題があると認識している。現役世代は、掲示板は見えないし、市民活動という観点で「松戸市」というキーワードでは情報検索もしない(私は2年前までそうでした)ので、市民活動とのつながるきっかけが稀有。一方で社会貢献したと思っている人は一定数いるが、何をすればいいのかわからない、自分のやりたいことが見つからないと感じる人がいると想定する。そのような現役世代(ビジネスパーソン)の興味を引くキーワード、DX、AI、自動運転、ドローン、ロボットなど新しいテクノロジーを活用する松戸市をアピールし、その先に市民活動があると現役世代と市民活動がつながるきっかけが生まれると考える。行政からのSNSによる情報発信の工夫が必要。	本計画では、現役世代の市民活動への参加が少ないという課題を踏まえ、時間的制約のある現役世代にも届きやすい情報発信の工夫を行うこととしています。具体的には、町会・自治会活動への理解促進を図るため、漫画やアニメを活用した情報発信や、協働のまちづくりに関するInstagramの開設を位置づけています。また、目指す姿3-4の個別施策「各種媒体による行政情報の提供」において、SNS等を活用した情報発信を行うこととしており、こうした取り組みを通じて、現役世代が市民活動や地域活動に関心を持つきっかけにつなげてまいります。	無
18	38-39	様々な立場の人 たち	施策の方向性に外国人とのつながりづくりについて記載しており、個別施策においても国際交流協会への支援を追加しています。 一方で町会・自治会も外国人とのつながりづくりに苦労しているところもあると聞き及んでおります。 町会・自治会が外国人とつながることができる支援が必要と考えます。	本計画では、外国人を含めた多様な人々が地域やまちづくりに関われるよう、つながりづくりを進めていくことを施策の方向性として示しており、目指す姿3-3の個別施策においては、国際交流協会への支援などを通じた取り組みを位置づけています。 町会・自治会における外国人とのつながりづくりに関するご意見については、貴重なご意見として、今後の参考とさせていただきます。	無
19	40-42	目指す姿3-4「松 戸のまちづくりや 生活に関する情報 が得られる」	市民センターなどに多数のチラシが掲示されており、また松戸市公式LINEアカウントからの通知もあり、各市民活動独自にSNS情報発信を行っているが、利用者は、大量の情報から自分にマッチングしたイベントを探すのが難しいのではないかと想定する。AIを活用して、SNSなどのネット上に公開されている情報をもとに「あなたにぴったりの活動はこれですよ」とプッシュ型で通知する仕組みを開発する。例えば、googleやYouTubeは、検索した履歴をベースに「あるアルゴリズム」で「あなたのおすすめはこちら」と通知がくる。これに似た仕組みにより、市民活動主催者と利用者のマッチングが容易になり、利用者増につながるのでは。	情報については、行政として責任をもって取り扱うことができる情報を整理し、各種媒体を通じて提供することが大切であると認識しています。情報提供の在り方に関するご意見として、今後の取り組みの参考とさせていただきます。	無

No.	頁	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正有無
20	47	成果目標、基本目標1「自分の望む町づくりに参画できる」	すでに目標を達成しているような表現になっているが、「協働のまちづくりに関する意識調査報告書」によると市民活動に参加している市民の割合が、平成27年度の13.6%から令和6年度は10.9%と下がっています。「協働」を加速するためにも、成果目標値は、この市民活動参加率だと思えます。	市民活動参加率は、本計画において成果目標として設定しており、意識調査結果に基づく推移についても記載しています。参加率は低下傾向にありますが、中間見直しにおいて本指標は当初計画の令和10年度目標値を継続して達成を目指すこととしています。	無
21	-	全般	計画前期の評価として「協働」の内容についての記載があるが、そもそも「協働ありき」ではなくて松戸市としての街づくりの目指すゴールがあり、その達成に向け市・企業・住民各ステークホルダーの「役割」「協働」についての具体の検討・計画されたものかと思えます。目指すゴールに向けたプロセスの中で反省と課題も含めての説明に関して全く記載がなされていないように感じる。まずはそこを互いに齟齬なきよう理解・合意した上で今後後期に向けての議論がなされる必要性を感じます。	本計画は、協働の推進に必要な考え方や施策を整理したものであり、松戸市のまちづくりの方向性や分野ごとの施策については、総合計画および各分野の個別計画で整理しています。ご意見のような前期の取り組みにおける成果や課題については、第3章の計画前期の進捗評価において整理して記載しています。	無
22	-	全般	計画前期からの継続する施策や新たに実施する施策があるが、いずれの施策(取り組み)も全部同じ濃度で実施わけではなく、優先度の高い、低い(濃淡)があると思うが、資料からは読み取れない。松戸市が考える優先順位や予算感の説明がほしい。そのうえでその優先度についても市民とのすり合わせが必要だと感じる。	本計画は、協働を推進するための考え方や施策の方向性を示しております。施策の具体的な進め方や予算規模等については、社会情勢や事業の状況等を踏まえながら、年度ごとの事業実施や予算編成の中で検討されていくものと考えています。	無